

「最近、魚のぜんぜんおらんごつなった。」私が中学生の頃、父はそうやってため息ばかりついていました。私の住む平岡地区は、波の穏やかな美しい海が当たり一面に広がり、太刀魚やしらすなど季節に合わせた漁業が行われています。我が家は祖父の代から続く漁業を営んでおり、幼い頃から海が遊び場で、父や祖父と漁へ出かける時間は、私の楽しみの一つでした。

しかし、数年前までは、船いっぱいに捕れた魚が今では不漁続きとなり、年々漁獲量が減少する中で父は次第に笑顔を失っていました。なぜ漁獲量が減ったのか？どうすれば魚が増えるのか？日々、疑問に思うことばかりでした。私が芦北高校のアアマモ場再生プロジェクトを知ったのはちょうどその頃でした。

アアマモとは、海中に生える海草で、海中の酸素供給や水質浄化、さらには小魚たちの住処になるなど多くの働きを持ち、海のゆりかごとも言われています。アアマモの減少とともに漁獲量が減ってきている現状を知った私は、「父の笑顔を取り戻すためにも漁場を復活せたい」という思いを持ち、芦北高校に入学しました。

私は現在、先輩方の後を引き継ぎ、アアマモ場再生プロジェクトに取り組んでいます。真冬の寒さの中で行われた初めてのアアマモ苗の移植。潮が引いた海で慣れないぬかるみに何度も足を取られながら1本、1本アアマモの苗を植え付けます。冷たい水で手はかじかみ、泥だらけになりながらも600本の移植を終えたとき、言葉では言い表せない清々しい達成感を感じました。アアマモ場再生プロジェクトが始まって17年。試行錯誤の定植実験を繰り返してきた結果、現在アアマモ場は活動当初の0.25haから8haへ約32倍にまで面積を拡大しています。また、生物調査の結果では、小魚やエビ、イカ類の生育の場が増えていることがわかりました。この結果を目の当たりにし、私の心は躍りました。豊かな漁場を取り戻したいという私の目標達成のための確かな一歩を感じたからです。

しかし、私たちの活動はこれだけでは終わりません。豊かなアアマモ場を支えているのは、上流に広がる豊かな森だということをまさに体感したのが鏡山での間伐実習でした。

実際に間伐を行うと、薄暗かった森は太陽の光が差し込み、キラキラと輝いていました。明るい林内は、ワラビやアケビ、アラカシなど多様な植物を育み、昆虫や動物の住む素晴らしい空間へと変わります。生物多様性の森は、栄養分を含んだスポンジのようなふるかした森林土壌をつくるということがはつきりとわかりました。私は、これらの実習を通じて「豊かな森」の意味を知り、豊かな森から、多くのミネラルを含んだ養分が川を通じ

て海に供給されてこそアアマモは定着し、「豊かな海」を育むことを実感しました。長年、疑問に思っていたことが解決し、頭の中がすっきりした気分です。

森と海の関係性について調べていると1924年に書かれた葦北郡史の記事を見つけました。「本郡沿海が海藻繁殖し緑陰をあたえられ、常に魚族の生活繁殖に合適せるも、一に批森林の全上を蔽へるに始因するものと伝わさるべからず。」この言葉を解釈すると「芦北の海が海藻や魚で豊かなのは豊かな森があることを忘れてはけない」というものです。科学技術が発達していない時代に先人たちは、森が豊かではじめて海も豊かになることを認いていたのです。しかし、現代の私たちの生活は約100年前と比べものにならないほど科学技術が進歩しているにもかかわらず、豊かな海は損なわれています。その原因の一つは森の荒廃であることに気がかされました。

芦北の林業は、昭和中期頃までアカマツの坑木生産地として隆盛を極めました。その後、松枯れ病などによってマツの短伐期林業は衰退し、スギ・ヒノキの人工林に姿を変えました。しかし、その人工林も全般的な林業の衰退と相まって、荒廃が進行している現状にあります。現在芦北町の森林率は70%を誇り、一見、豊かな森に感じますが、その多くは人が管理の手を止めた人工林です。まさに、林業の衰退と共に森林が荒廃した結果、海の環境悪化を引き起こし、アアマモや魚の減少に繋がったのです。

先日、スギ林の隣にクスギを植えました。クスギなどの落葉する広葉樹を植えることで更に人工林の機能を高めることができます。私の活動は、「我が家の漁業を守りたい」という思いを発端にアアマモ場から始まりましたが、今、「森を守らなければいけない」という強い決意に変わりました。「豊かな森は、豊かな海を育む」。森の保全が海の環境を、ひいては地域の環境を良くするのだと考えます。

これらの活動とともに私の将来の展望が開けてきました。今、私の目標は、熊本県の林業継に続き、適切な森林整備に取り組むことです。間伐促進、放牧林の改善、森林の機能を高める森づくりなど挑戦したいことが次々と浮かびます。目標の実現のために森林・林業の専門性をさらに高め、故郷の森から海までの地域環境を支える人材を目指します。

「最近、よう魚が捕れるようになった」と笑顔で話す父の姿を取り戻せるように、豊かな森の実現を目指し、今後も努力していきます。